

(様式第 10)

岩医大病企第 172 号  
令和 2 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人岩手医科大学  
理事長 小川 章

岩手医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和元年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通一丁目 1 番 1 号
氏 名	学校法人岩手医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

岩手医科大学附属病院
------------

3 所在の場所

〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目 1 番 1 号	電話 (019) 613-7111
--------------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
①呼吸器内科                      ②消化器内科                      ③循環器内科                      ④腎臓内科	
⑤神経内科                      6血液内科                      ⑦内分泌内科                      8代謝内科	
9感染症内科                      ⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科                      ⑪リウマチ科	
診療実績	
・血液内科    : 血液・腫瘍内科	
・代謝内科    : 糖尿病・代謝内科	
・感染症内科 : 呼吸器内科	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科                      ②消化器外科                      ③乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      ⑥心臓血管外科                      7内分泌外科                      ⑧小児外科	
診療実績 ・ 内分泌外科：外科	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科    8産科    9婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    12放射線科 ⑬放射線診断科    ⑭放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科
---

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科    2矯正歯科    3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1リハビリテーション科    2児童精神科    3臨床検査科    4病理診断科    5肝臓内科    6心療内科 7老年内科    8緩和ケア内科    9肝臓外科    10気管食道外科    11形成外科    12頭頸部外科 13美容外科    14
---

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
68床	床	床	床	932床	1,000床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	242人	191.9人	433.9人	看護補助者	98人	診療エックス線	0人

歯科医師	5人	66.12人	71.12人	理学療法士	23人	技師 臨床検査技師	64人
薬剤師	73人	0人	73人	作業療法士	12人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	1人	その他	0人
助産師	49人	0人	49人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	1,199人	0.9人	1199.9人	臨床工学士	33人	医療社会事業従事者	14人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	55人
歯科衛生士	5人	0人	5人	歯科技工士	0人	事務職員	113人
管理栄養士	12人	0人	12人	診療放射線技師	59人	その他の職員	0人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 7 専門の医師数

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	33.92人	眼科専門医	10.26人
外科専門医	52.96人	耳鼻咽喉科専門医	11.32人
精神科専門医	7.28人	放射線科専門医	3人
小児科専門医	28.9人	脳神経外科専門医	15.7人
皮膚科専門医	13.66人	整形外科専門医	14.26人
泌尿器科専門医	12.04人	麻酔科専門医	13.38人
産婦人科専門医	20.66人	救急科専門医	17.14人
		合計	254.48人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

## 8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (小笠原 邦昭) 任命年月日 平成30年4月1日

医療安全関係の学内委員会への出席状況 (2019年度出席回数)

- ・医療安全推進委員会 2019年4月から8回 (全12回)
- ・総合医療安全対策会議 2019年4月から12回 (全12回)
- ・監査委員会 (医療安全) 2019年4月から1回 (全1回)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	783.2人	9.1人	792.3人
1日当たり平均外来患者数	998.5人	209.3人	1,207.8人
1日当たり平均調剤数	1,130.00 剤		
必要医師数	147.825人		
必要歯科医師数	12人		
必要薬剤師数	27人		
必要(准)看護師数	437人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要
集中治療室	1,261.4m <sup>2</sup>	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	病床数 24床
			心電計 ④・無
			人工呼吸装置 ④・無
			心細動除去装置 ④・無
			その他の救急蘇生装置 ④・無
			ペースメーカー ④・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 564.2 m <sup>2</sup>		病床数 45 床
	[移動式の場合] 台数 台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 147.2 m <sup>2</sup>		
	[共用室の場合] 共用する室名 薬務室		
化学検査室	402.6 m <sup>2</sup>	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備) 生化学自動分析装置 全自動尿分析装置 総合血液学検査・自動塗抹標本作成装置 免疫発光測定装置 免疫統合自動分析装置 他
細菌検査室	183.3 m <sup>2</sup>	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備) 質量分析計、薬剤感受性試験装置 血液培養自動分析装置 全自動抗酸菌培養検査装置 他
病理検査室	247.8 m <sup>2</sup>	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備) 凍結組織切片作成装置 ホルマリン対策臓器撮影装置 自動ガラス封入・染色装置 システム生物顕微鏡 他
病理解剖室	50.0 m <sup>2</sup>	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	(主な設備) 感染防止対策用解剖台 ラミナーフローユニット プッシュプル型切り出し台 ホルマリン固定液作成装置 他
研究室	15,148.3 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	主な設備) 研究用機器 他

講義室	4,305.8 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 21 室	収容定員 2,848 人
図書室	1,229 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数 4 室	蔵書数 99,800 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	78.4%	逆紹介率	122.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数		11,506人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		20,917人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,947人
	D: 初診の患者の数		17,152人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

### 12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三木 保	東京医科大学 医学部 医療 の質・安全管理 分野 主任教 授	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/>	1
渡辺 正和	渡辺正和法律 事務所 代表		法律に関する識 見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/>	1
古内 保之	元社会福祉法 人岩手県社会 福祉協議会 専務理事兼事 務局長		医療を受ける者 その他医療従事 者以外の者	有・ <input checked="" type="radio"/>	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

### 13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> ・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> ・無
公表の方法	
附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	9人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示  
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
放射線照射前に大量メトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	0人
テモゾロミド用量強化療法	2人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0人
パクリタキセル静脈内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下直腸手術	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 ロボット支援(ダヴィンチ)を用いた直腸がん手術			
医療技術名	経皮的僧帽弁クリップ術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 経皮的僧帽弁接合不全修復システムを用い、高度僧帽弁閉鎖不全症の患者を経皮経カテーテル的に修復する			
医療技術名	ロボット支援下における以下の術式 1、胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術 2、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術 3、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 上記3術式の手術をロボット支援下を実施する			
医療技術名	ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 子宮体がんに対する子宮悪性腫瘍手術をロボット支援下にて実施する			
医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 食道がんに対する食道切除術をロボット支援(ダヴィンチ)下に施行する			
医療技術名	EX-utero Intrapartum Treatment(EXIT)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 帝王切開分娩時臍帯非切断下気道確保			
医療技術名	左心耳閉鎖術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 中隔穿刺にて右房から左房にアプローチ、左心耳内に栓塞デバイスを留置して左心耳の閉鎖を行い、デバイス表面が内皮化されることで、左心耳由来の血栓による心原性脳卒中予防を図る。			
医療技術名	気管腫瘍(再建を伴う気管分岐部切除術)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 気道狭窄を呈する気管分岐部腫瘍の患者に対して実施			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	73
2	筋萎縮性側索硬化症	47	57	特発性拡張型心筋症	58
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	30
6	パーキンソン病	243	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	5	63	特発性血小板減少性紫斑病	42
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリエー・トウス病	1	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	90	66	IgA腎症	16
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	36
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	132	68	黄色靱帯骨化症	12
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	31	69	後縦靱帯骨化症	48
15	封入体筋炎	7	70	広範脊柱管狭窄症	1
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	20
17	多系統萎縮症	16	72	下垂体性ADH分泌異常症	4
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	47	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	1
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	77	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	25
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	5	83	アジソン病	1
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	68
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	13
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	9
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	11
34	神経線維腫症	21	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	18	90	網膜色素変性症	16
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	6
37	膿疱性乾癬(汎発型)	17	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	2	93	原発性胆汁性肝硬変	67
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	8
40	高安動脈炎	10	95	自己免疫性肝炎	25
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	176
42	結節性多発動脈炎	7	97	潰瘍性大腸炎	234
43	顕微鏡的多発血管炎	10	98	好酸球性消化管疾患	4
44	多発血管炎性肉芽腫症	5	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	5	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	3	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	184	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	43	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	64	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	19	107	若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	7	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	6	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
0	先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
0	マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
13	筋ジストロフィー	163	特発性後天性全身性無汗症	0
0	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	0
0	遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
0	アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
2	脊髄空洞症	167	マルファン症候群	2
0	脊髄髄膜瘤	168	エーラス・ダンロス症候群	0
1	アイザックス症候群	169	メンケス病	0
0	遺伝性ジストニア	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
0	神経フェリチン症	171	ウィルソン病	1
0	脳表ヘモジデリン沈着症	172	低ホスファターゼ症	0
0	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	VATER症候群	0
1	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174	那須・ハコラ病	0
0	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175	ウィーバー症候群	0
0	ペリー症候群	176	コフィン・ローリー症候群	0
1	前頭側頭葉変性症	177	ジュベール症候群関連疾患	0
0	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178	モワット・ウィルソン症候群	0
0	痙攣重積型(二相性)急性脳症	179	ウィリアムズ症候群	0
0	先天性無痛無汗症	180	ATR-X症候群	0
1	アレキサンダー病	181	クルーゾン症候群	0
0	先天性核上性球麻痺	182	アペール症候群	0
0	メビウス症候群	183	ファイファー症候群	0
0	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
0	アイカルディ症候群	185	コフィン・シリス症候群	0
0	片側巨脳症	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
0	限局性皮質異形成	187	歌舞伎症候群	0
0	神経細胞移動異常症	188	多脾症候群	1
0	先天性大脳白質形成不全症	189	無脾症候群	0
0	ドラベ症候群	190	鰓耳腎症候群	0
1	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	ウェルナー症候群	2
0	ミオクロニー欠神てんかん	192	コケイン症候群	0
0	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
0	レノックス・ガストー症候群	194	ソス症候群	0
0	ウエスト症候群	195	ヌーナン症候群	1
0	大田原症候群	196	ヤング・シンブソン症候群	0
0	早期ミオクロニー脳症	197	1p36欠失症候群	0
0	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	4p欠失症候群	0
0	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	5p欠失症候群	0
0	環状20番染色体症候群	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
0	ラスムッセン脳炎	201	アンジェルマン症候群	0
0	PCDH19関連症候群	202	スミス・マギニス症候群	0
0	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203	22q11.2欠失症候群	0
0	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	エマヌエル症候群	0
0	ランドウ・クレフナー症候群	205	脆弱X症候群関連疾患	0
0	レット症候群	206	脆弱X症候群	0
1	スタージ・ウェーバー症候群	207	総動脈幹遺残症	0
1	結節性硬化症	208	修正大血管転位症	1
0	色素性乾皮症	209	完全大血管転位症	2
0	先天性魚鱗癬	210	単心室症	5

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症		0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症		1
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病		1
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症		0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症		0
216	両大血管右室起始症	2	264	無 $\beta$ リポタンパク血症		0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症		0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱		0
219	ギャロウェイ・モト症候群	0	267	高IgD症候群		0
220	急速進行性糸球体腎炎	12	268	中條・西村症候群		0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群		0
222	一次性ネフローゼ症候群	36	270	慢性再発性多発性骨髄炎		0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎		9
224	紫斑病性腎炎	4	272	進行性骨化性線維異形成症		1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症		0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症		0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症		0
228	閉塞性細気管支炎	1	276	軟骨無形成症		1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病		0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)		1
231	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)		0
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)		2
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群		0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血		0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆		1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血		0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	285	ファンコニ貧血		0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血		0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群		0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII		1
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群		1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症		0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)		0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症		0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残		0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア		0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫		0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症		0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群		1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎		0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症		0
252	リジン尿性蛋白不耐症	1	300	IgG4関連疾患		2
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー		0
254	ボルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症		0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アツシャー症候群		0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴		3
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫		0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎		6

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	1
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般7対1)	・認知症ケア加算1
・特定機能病院入院基本料(精神10対1)	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科急性期医師配置加算2のイ
・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算	・地域医療体制確保加算
・医師事務作業補助体制加算1 75対1	・救命救急入院料3
・急性期看護補助体制加算 50対1	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・看護職員夜間16対1配置加算1	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・診療録管理体制加算2	・特定集中治療室管理料3
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1,2	・総合周産期特定集中治療管理料(母体・胎児)
・緩和ケア診療加算	・総合周産期特定集中治療管理料(新生児)
・精神科応急入院施設管理加算	・小児入院医療管理料2
・精神科身体合併症管理加算	・緩和ケア病棟入院料2
・精神科リエゾンチーム加算	・児童・思春期精神科入院医療管理料
・精神病棟入院時医学管理加算	・地域歯科診療支援病院初診料
・感染防止対策加算1	・歯科外来診療環境体制加算
・患者サポート体制充実加算	・歯科診療特別対応連携加算
・医療安全対策加算1	・地域歯科診療支援病院入院加算
・ハイリスク妊娠管理加算	・重症者等療養環境特別加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1,2	・
・データ提出加算2 イ	・
・入退院支援加算1,3、入院時支援加算	・
・せん妄ハイリスク患者ケア加算	・

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ 歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・ 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・ 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・ 頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・ 糖尿病合併症管理料	・ 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・ がん性疼痛緩和指導管理料	・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・ がん患者指導管理料イ	・ 人工中耳植込術
・ がん患者指導管理料ロ	・ 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・ がん患者指導管理料ハ	・ 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・ がん患者指導管理料ニ	・ 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・ 外来緩和ケア管理料	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・ 移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ 上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・ 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ 内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・ 糖尿病透析予防指導管理料	・ 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・ 婦人科特定疾患治療管理料	・ 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・ 腎代替療法指導管理料	・ ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ 外来放射線照射診療料	・ 胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・ 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・ 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ がん治療連携計画策定料	・ 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・ ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 薬剤管理指導料	・ 縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 医療機器安全管理料1	・ 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・ 医療機器安全管理料2	・ 胸腔鏡下弁形成術
・ 医療機器安全管理料(歯科)	・ 経カテーテル大動脈弁置換術
・ 精神科退院時共同指導料1及び2	・ 胸腔鏡下弁置換術
・ 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2	・ 経皮的僧帽弁クリップ術
・ 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ 不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)

・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・経皮的中隔心筋焼灼術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・遺伝学的検査	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・有床義歯咀嚼機能検査2の口及び咬合圧検査	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・精密触覚機能検査	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・骨髄微小残存病変量測定	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・BRCA1/2遺伝子検査	・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・先天性代謝異常症検査	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・経皮的下肢動脈形成術
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・検体検査管理加算(IV)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ヘッドアップティルト試験	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・腹腔鏡下肝切除術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・生体部分肝移植術
・神経学的検査	・同種死体肝移植術
・補聴器適合検査	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下臍頭部腫瘍切除術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・歯科画像診断管理加算1	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・歯科画像診断管理加算2	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・遠隔画像診断	・同種死体腎移植術
・ポジトロン断層撮影	・生体腎移植術



・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・頭部MRI撮影加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・外来化学療法加算1	・輸血管理料Ⅱ
・無菌製剤処理料	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・自己生体組織接着剤作成術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅱ)
・がん患者リハビリテーション料	・放射線治療専任加算
・リンパ浮腫複合的治療料	・外来放射線治療加算
・療養生活環境整備指導加算	・高エネルギー放射線治療
・救急患者精神科継続支援料	・1回線量増加加算
・認知療法・認知行動療法1	・強度変調放射線治療(IMRT)
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・医療保護入院等診療料	・定位放射線治療
・人工腎臓	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・保険医療機関間の連携による病理診断
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・CAD/CAM冠	・病理診断管理加算2
・センチネルリンパ節加算	・デジタル病理画像による病理診断
・皮膚移植術(死体)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・椎間板内酵素注入療法	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	・
・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	月9回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 28 例 / 剖検率 7.0 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
東日本大震災後に誕生した子どもとその家庭への縦断的支援研究	八木 淳子	神経精神科学講座	1,755,000	補 委 文部科学省
当院で分離されたMRSAの細菌学的解析(10年間の変化について)	山田 友紀	中央臨床検査部	530,000	補 委 文部科学省
早期骨形成を促す超親水性骨移植材の開発	鬼原 英道	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	1,170,000	補 委 文部科学省
脊椎器械固定術後の血液マーカーによる簡易骨癒合診断システムの開発	村上 秀樹	整形外科科学講座	650,000	補 委 文部科学省
褐色脂肪細胞を活性化させる分子メカニズムの解明	長谷川 豊	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	260,000	補 委 文部科学省
発生部位によるmicrosatellite stable型大腸癌の分子解析	菅井 有	病理診断学講座	1,430,000	補 委 文部科学省
腺管分離法を用いたSNP arrayによる胆道癌のゲノムコピー数解析	塩井 義裕	外科学講座	130,000	補 委 文部科学省
腸症関連T細胞リンパ腫の病態に関する臨床および分子病理学的研究	中村 昌太郎	内科学講座消化器内科消化管分野	390,000	補 委 文部科学省
放射線治療用小型皮膚線量計の開発	山口 哲	放射線医学講座	390,000	補 委 文部科学省
自己血採血後遅発性副作用のリスク解析と予防のための看護方法の開発	鈴木 啓二郎	臨床検査医学講座	650,000	補 委 文部科学省

小計10件

東日本大震災被災地域住民における心電図指標と循環器疾患発症危険に関する研究	田中 文隆	内科学講座腎・高血圧内科分野	910,000	補委 文部科学省
幼少期トラウマ体験と遺伝子相互作用が神経ネットワークに与える影響	福本 健太郎	神経精神科学講座	1,300,000	補委 文部科学省
ナノ粒子を用いた、癌原発巣-転移巣CT検出と、放射線遠達効果による転移巣の治療法	原田 聡	放射線医学講座	780,000	補委 文部科学省
血漿中遊離変異DNA定量による食道癌モニタリングシステムの開発	岩谷 岳	外科学講座	1,430,000	補委 文部科学省
大腸癌の予後に関連するnon-coding RNA FTXに関する検討	秋山 有史	外科学講座	1,430,000	補委 文部科学省
Muse細胞を用いた大量肝切除後補助療法へ向けた基盤構築	片桐 弘勝	外科学講座	1,040,000	補委 文部科学省
大量肝切除後の幹細胞補充療法	高原 武志	外科学講座	650,000	補委 文部科学省
空間認識が人工内耳装用者の平衡機能に及ぼす影響の解明	平海 晴一	耳鼻咽喉科学講座	1,430,000	補委 文部科学省
TGF- $\beta$ による水晶体上皮細胞の上皮間葉系移行におけるMRTFの役割	黒坂 大次郎	眼科学講座	910,000	補委 文部科学省
一酸化炭素中毒における連鎖的大脳白質障害の病態解明と最適予測因子の検索	別府 高明	脳神経外科学講座	1,040,000	補委 文部科学省
胃乳頭状腺癌における臨床病理学および分子病理学的解析	上杉 憲幸	病理診断学講座	1,560,000	補委 文部科学省

超高精細CTによるAdamkiewicz動脈とその側副血行路の研究	吉岡 邦浩	放射線医学講座	520,000	補 委 文部科学省
磁気共鳴分光法を用いた脳内代謝物質による新生児重症仮死の高精度予後予測法の確立	赤坂 真奈美	小児科学講座	910,000	補 委 文部科学省
非アポトーシス細胞死制御による非アルコール性脂肪肝炎の治療法確立の試み	柿坂 啓介	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,950,000	補 委 文部科学省
高度肥満者の内臓脂肪組織における調節機構破綻のメカニズムの解明	石垣 泰	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	1,170,000	補 委 文部科学省
脳転移指向性乳癌細胞株および乳癌原発組織を用いた脳転移予測バイオマーカーの探索	石田 和茂	外科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
歩行機能に与える圧迫性脊髄症に対する除圧術の影響と脳循環代謝変化との相関	菅原 淳	脳神経外科学講座	910,000	補 委 文部科学省
脳虚血再灌流時の内頸静脈血中血管ホルモン動態解析による脳血流自動調節機構の解明	吉田 研二	脳神経外科学講座	1,690,000	補 委 文部科学省
頸動脈内膜剥離術を用いた脳循環不全性認知症とアルツハイマー病の関連の解明	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	1,560,000	補 委 文部科学省
子宮体部漿液性癌の治療抵抗性を克服する新規治療法の開発	馬場 長	産婦人科学講座	325,000	補 委 文部科学省
ウスタビガ菌シルクプロテインとiPS細胞による歯槽骨再生技術の開発	菊池 和子	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	1,300,000	補 委 文部科学省
デジタル技術の応用による咀嚼運動に調和した補綴装置製作法の開発	田邊 憲昌	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	1,430,000	補 委 文部科学省

小計11件

口腔機能・形態の発育を担う顎顔面骨格筋局所に発現するアミノ酸センサーの役割	森川 和政	口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者 歯科学分野	455,000	補 委 文部科学省
周術期口腔粘膜炎症イン ディケータとしての唾液炎 症マーカーの検討	岸 光男	口腔医学講座予防歯 科学分野	910,000	補 委 文部科学省
がん終末期における地域 医療連携の質を評価する ための新指標開発に関する 研究	木村 祐輔	緩和医療学科	1,170,000	補 委 文部科学省
行動変容プロセス評価と 検証による生活習慣病重 症化予防のための多因子 治療の探索	旭 浩一	内科学講座腎・高血 圧内科分野	1,040,000	補 委 文部科学省
VEGFR-3陽性単球系細胞 を指標とした間質性肺炎 の新規マーカーの開発と 病態解明	山下 雅大	内科学講座呼吸器・ アレルギー・膠原病 内科分野	2,080,000	補 委 文部科学省
多系統萎縮症の脳内 $\alpha$ シ ヌクレイン異常凝集に対 する腸内細菌叢の関与の 解明	前田 哲也	内科学講座神経内 科・老年科分野	780,000	補 委 文部科学省
高齢者筋層浸潤性膀胱 癌に対するMMC+UFTを 用いた化学放射線療法の 臨床研究	有賀 久哲	放射線腫瘍学科	910,000	補 委 文部科学省
転移性肝腫瘍に対する人工 知能(AI)を用いた治療 効果予測の確立	田村 明生(赤羽 明生)	放射線医学講座	1,690,000	補 委 文部科学省
超高磁場MRIを用いた脳 脊髄液動態評価による病 態診断法の開発	藤原 俊朗	脳神経外科学講座	2,600,000	補 委 文部科学省
超音波減衰量イメージン グとエラストグラフィによる NASHの非侵襲的診断法 の確立	黒田 英克	内科学講座消化器内 科肝臓分野	2,080,000	補 委 文部科学省
急性肝不全救命に向けた 成熟肝細胞の至適増殖 環境の解明	滝川 康裕	内科学講座消化器内 科肝臓分野	2,340,000	補 委 文部科学省

左心耳における脳塞栓発生の危険因子同定と閉鎖術の術前治療計画システムの開発・検証	森野 禎浩	内科学講座循環器内科分野	2,470,000	補委 文部科学省
CMTM遺伝子群による変異EGFR陽性肺癌の分子基盤と治療戦略への展開	前門戸 任	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	1,040,000	補委 文部科学省
血小板産生と機能獲得におけるAutophagyの役割の解明	古和田 周吾	内科学講座血液腫瘍内科分野	1,300,000	補委 文部科学省
感温性磁性体を用いた癌の低侵襲的温熱療法の研究	齊藤 元	呼吸器外科学講座	780,000	補委 文部科学省
Helicobacter pylori免疫応答が胃癌術後補助化学療法に及ぼす影響	肥田 圭介	医療安全学講座	1,430,000	補委 文部科学省
Circulating tumor DNA検査の臨床導入における課題点の克服	遠藤 史隆	外科学講座	1,560,000	補委 文部科学省
脳動脈血行再建術後過灌流による認知機能障害の分子生物学的メカニズムの解明	千田 光平	脳神経外科学講座	2,210,000	補委 文部科学省
卵巣明細胞癌に対するNEFHを標的とした新規治療法の開発	板持 広明	臨床腫瘍学講座	2,080,000	補委 文部科学省
脳内出血における大脳皮質神経受容体結合能およびアミノ酸代謝の変化と嚥下障害の関連	小守林 靖一	岩手県高度救命救急センター	910,000	補委 文部科学省
咀嚼機能障害に対する機能回復が脳機能および認知機能に及ぼす影響の検討	小林 琢也	補綴・インプラント学講座摂食嚥下・口腔リハビリテーション学分野	2,730,000	補委 文部科学省
頸部聴診法の人工知能化による嚥下モニターの開発	玉田 泰嗣	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	2,600,000	補委 文部科学省

小計11件

DPC情報と電子カルテ情報を用いた脳卒中登録システム整備に関する研究	大間々 真一	岩手県高度救命救急センター	1,690,000	補委 文部科学省
高度肥満症に対する肥満外科手術の骨格筋インスリン抵抗性改善のメカニズム	馬場 誠朗	外科学講座	3,640,000	補委 文部科学省
リンパ節内圧測定によるリンパ節転移超早期診断とリンパ行性薬剤導入システム治療	志賀 清人	頭頸部外科学科	3,510,000	補委 文部科学省
B型肝炎スクリーニング再構築に向けたmicroRNAによる発癌予測手法の確立	吉田 雄一	内科学講座消化器内科肝臓分野	260,000	補委 文部科学省
気管支喘息患者の気道リモデリングにおけるIL-24の新たな作用に関する研究	長島 広相	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	520,000	補委 文部科学省
超高精細CTによる冠動脈CTの基礎検討および臨床応用	高木 英誠	放射線医学講座	130,000	補委 文部科学省
岩手県における急性肝障害の成因解明と重症化要因の解析	滝川 康裕	内科学講座 消化器内科肝臓分野	1,000,000	補委 岩手県
降圧薬服用高血圧患者の脳心血管病発症リスクに関する検討	旭 浩一	内科学講座 腎・高血圧内科分野	1,000,000	補委 岩手県
全自動血液凝固能測定器を用いた脳梗塞に対する抗血栓療法の最適化に関する研究	前田 哲也	内科学講座 神経内科・老年科分野	1,000,000	補委 岩手県
糖尿病性腎症重症化予防に向けた早期増悪患者の抽出	石垣 泰	内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	1,000,000	補委 岩手県
本県における冠動脈インターベンション(PCI)患者の抗血栓療法の実態調査	森野 禎浩	内科学講座 循環器内科分野	1,000,000	補委 岩手県



高度肥満症患者における メタボロミクス・リポミクス 解析	佐々木 章	外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
頸部頸動脈狭窄症に対 する内膜剥離術の歩行機 能と大脳皮質神経細胞受 容体機能に対する効果	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
急性大動脈解離症例に おける術中血液凝固モニ ターを用いた輸血療法の 検討	金 一	心臓血管外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
肺悪性腫瘍における縮小 手術の有用性に関する検 討	齊藤 元	呼吸器外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
ナビゲーションを用いた転 移性骨腫瘍手術の切除 縁評価	土井田 稔	整形外科科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県における透析患者 の下肢血管狭窄を予測す るための、非侵襲血流測 定計活用の検討	櫻庭 実	形成外科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
岩手県産婦人科医療に おける内視鏡手術技術均 てん化を目的とした大学 病院および県立病院連携 の強化	馬場 長	産婦人科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
小児I型糖尿病の遠隔テ レビ会議システムを用いた フォローアップ体制の確 立	小山 耕太郎	小児科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
難聴者における補聴と聴 覚リハビリテーションの研 究	佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
血中タンパク質解析による 腎移植後の腎機能予測 関連因子の探索 ～岩手 県の腎移植増進に向けて ～	小原 航	泌尿器科学講座	1,000,000	補 委	岩手県
被災地域精神保健医療 における双方向性教育法 の構築	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	1,000,000	補 委	岩手県

小計11件

ビデオ喉頭鏡が医学教育に与える影響についての研究	鈴木 健二	麻酔学講座	1,000,000	補委	岩手県
市中で広がる薬剤耐性菌が地域医療に与える影響:ESBL産生菌の保菌リスクと予後・医療経費分析	諏訪部 章	臨床検査医学講座	1,000,000	補委	岩手県
岩手県奨学生養成医師の義務履行を促進・阻害する要因についての分析	下沖 収	救急・災害・総合医学講座 総合診療医学分野	1,000,000	補委	岩手県
いわて戦略的研究開発推進事業(応用研究ステージ)	岸 光男	口腔医学講座予防歯学分野	1,240,470	補委	岩手県
青森県量子科学センター委託研究事業	小林 正和	脳神経外科学講座	1,781,780	補委	青森県
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業)	滝川 康裕	内科学講座消化器内科肝臓分野	1,170,000	補委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(感染症実用化研究事業 肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事業)	滝川 康裕	内科学講座消化器内科肝臓分野	910,000	補委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	秋山 有史	外科学講座	520,000	補委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	櫻庭 実	形成外科学講座	436,020	補委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	伊藤 薫樹	内科学講座 血液腫瘍内科分野	390,000	補委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	志賀 清人	頭頸部外科学科	520,000	補委	日本医療研究開発機構

小計11件

国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的がん医療実用化研究事業)	別府 高明	脳神経外科学講座	260,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業)	小笠原 邦昭	脳神経外科学講座	195,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業)	板橋 亮	内科学講座 神経内科・老年科分野	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業)	吉岡 邦浩	放射線医学講座	2,340,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野))	大塚 耕太郎	神経精神科学講座	199,999	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(長寿・障害総合研究事業 認知症研究開発事業)	前田 哲也	内科学講座 神経内科・老年科分野	10,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(革新的先端研究開発支援事業)	前田 哲也	内科学講座 神経内科・老年科分野	4,290,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(免疫アレルギー疾患等実用化研究事業)	松本 主之	内科学講座 消化器内科消化器分野	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(再生医療実用化研究事業)	小山 耕太郎	小児科学講座	1,523,139	補 委	日本医療研究開発機構
国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託事業(腎疾患実用化研究事業)	旭 浩一	内科学講座腎・高血圧内科分野	195,000	補 委	日本医療研究開発機構

小計10件  
合計97件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kawasaki K, Eizuka M, Nakamura S, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Gastrointestinal: Discordant lymphoma consisting of ileal follicular lymphoma and colonic mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Nov;34:1894.	Case Report
2	Kawasaki K, Eizuka M, Nakamura S, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Methotrexate-Associated Lymphoproliferative Disorder of the Stomach Observed by Magnifying Narrow-Band Imaging Endoscopy	J Gastrointestin Liver Dis. 2019 Jun;28:145	Case Report
3	Kawasaki K, Nakamura S, Esaki M, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Clinical usefulness of magnifying colonoscopy for the diagnosis of ulcerative colitis-associated neoplasia	Dig Endosc. 2019 Apr;31:36-42.	Original Article
4	Kumei T, Toya Y, Shiohata T, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Gastrointestinal: Endoscopic injection sclerotherapy for duodenal vascular malformation in blue rubber bleb nevus syndrome	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Jun;34:963.	Case Report
5	Toya Y, Endo M, Nakamura S, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Long-term outcomes and prognostic factors with non- curative endoscopic submucosal dissection for gastric cancer in elderly patients aged75years	Gastric Cancer. 2019 Jul;22:838- 844.	Original Article
6	Toya Y, Endo M, Oizumi T, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Risk Factors for Post-gastric Endoscopic Submucosal Dissection Bleeding with a Special Emphasis on Anticoagulant Therapy	Dig Dis Sci. 2020 Feb;65:557- 564.	Original Article
7	Urushikubo J, Kawasaki K, Eizuka M, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Ustekinumab Improves Paradoxical Enteropathy Associated With Psoriasis Arthritis	Inflamm Bowel Dis. 2019 Sep;25:e128- e129.	Case Report
8	Urushikubo J, Yanai S, Nakamura S, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Efficacy of Indigo Naturalis Therapy for Ulcerative Colitis: A Case Series	Intern Med. 2019 Aug;58:2299- 2304.	Original Article
9	Gonai T, Kawasaki K, Nakamura S, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Microvascular density under magnifying narrow-band imaging endoscopy in colorectal epithelial neoplasms.	Intest Res. 2020 Jan;18:107- 114.	Original Article
10	Kawasaki K, Nakamura S, Esaki M, et al.	内科学講座消化器内科消 化管分野	Gastrointestinal involvement in patients with vasculitis: IgA vasculitis and eosinophilic granulomatosis with polyangiitis.	Endosc Int Open. 2019 Nov;7:E1333- E1343.	Original Article

11	Suzuki Y, Kakisaka K, Suzuki A, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	A Lille model for predicting the response of severe alcoholic hepatitis to corticosteroid treatment in Japanese patients.	Hepato Res. 2019 Jul;49(7):758-64.	Original Article
12	Sato T, Endo K, Kakisaka K, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Decreased Mean Kurtosis in the Putamen is a Diagnostic Feature of Minimal Hepatic Encephalopathy in Patients with Cirrhosis.	Intern Med. 2019 May 1;58(9):1217-24.	Original Article
13	Miyasaka A, Yoshida Y, Wang T, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Next-generation sequencing analysis of the human T-cell and B-cell receptor repertoire diversity before and after hepatitis B vaccination.	Hum Vaccin Immunother. 2019;15(11):2738-53.	Original Article
14	Kakisaka K, Suzuki Y, Takikawa Y.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Disease severity of acute liver injury caused by drug-induced liver injury may affect the response to corticosteroid therapy.	Liver Int. 2020 Jul;40:1781	Original Article
15	Sasaki T, Suzuki Y, Kakisaka K, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	IL-8 induces transdifferentiation of mature hepatocytes toward the cholangiocyte phenotype.	FEBS Open Bio. 2019 Dec;9(12):2105-16.	Original Article
16	Kakisaka K, Suzuki Y, Jinnouchi Y, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Unfavorable prognosis of patients with acute liver injury due to drug-induced liver injury and acute exacerbation of hepatitis B virus infection.	Hepato Res. 2019 Nov;49(11):1286-93.	Original Article
17	Kuorda H, Abe T, Fujiwara Y, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Change in arterial tumor perfusion is an early biomarker of lenvatinib efficacy in patients with unresectable hepatocellular carcinoma.	World J Gastroenterol. 2019 May 21;25(19):2365-72.	Original Article
18	Kakisaka K, Sakai A, Yoshida Y, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Hepatitis B Surface Antibody Titers at One and Two Years after Hepatitis B Virus Vaccination in Healthy Young Japanese Adults.	Intern Med. 2019 Aug 15;58(16):2349-55.	Original Article
19	Kakisaka K, Suzuki Y, Fujiwara Y, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Response to the letter by Sumida et al. regarding our manuscript "Evaluation of ballooned hepatocytes as a risk factor for future progression of fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease".	J Gastroenterol. 2019 May;54(5):476-7.	Original Article
20	Wang T, Suzuki K, Kakisaka K, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	L-carnitine prevents ammonia-induced cytotoxicity and disturbances in intracellular amino acid levels in human astrocytes.	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Jul;34(7):1249-55.	Original Article
21	Kakisaka K, Suzuki Y, Fujiwara Y, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Caspase-independent hepatocyte death: A result of the decrease of lysophosphatidylcholine acyltransferase 3 in non-alcoholic steatohepatitis.	J Gastroenterol Hepatol. 2019 Jul;34(7):1256-62.	Original Article
22	Endo K, Sato T, Suzuki A, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Sustained virologic response by direct-acting antivirals suppresses skeletal muscle loss in hepatitis C virus infection.	J Gastroenterol Hepatol. 2020 Jan (オンライン)	Original Article

23	Miyasaka A, Yoshida Y, Suzuki A, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	A case of suspected portal-pulmonary hypertension due to hepatitis C virus infection.	Clin J Gastroenterol. 2020 Feb;13(1):90-6.	Case Report
24	Yoshida Y, Yonezawa M, Okamoto T, et al.	内科学講座消化器内科肝臓分野	Occurrence of hepatocellular carcinoma 24 years after successful interferon therapy in a patient with chronic hepatitis C: a case report.	Clin J Gastroenterol. 2019 Apr;12:120-127.	Case Report
25	Todate Y, Uwano I, Yashiro S, et al.	内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野	High Prevalence of Cerebral Small Vessel Disease on 7T Magnetic Resonance Imaging in Familial Hypercholesterolemia	J Atheroscler Thromb. 2019 Dec;26:1045-1053.	Original Article
26	Takahashi Y, Satoh M, Ohmomo H, et al.	内科学講座循環器内科分野	Association between high-sensitivity cardiac troponin T and future cardiovascular incidence in a general Japanese population: results from the Tohoku medical megabank project	Biomarkers. 2019 Sep;24:566-573.	Original Article
27	Uchimura Y, Itoh T, Oda H, et al.	内科学講座循環器内科分野	Cut-off value of mal-apposition volume and depth for resolution at early phase of acute incomplete stent apposition after CoCr-EES implantation	Int J Cardiovasc Imaging. 2019 Nov;35:1979-1987.	Original Article
28	Yoshizawa R, Komatsu T, Kojima K, et al.	内科学講座循環器内科分野	Radiofrequency catheter ablation for inappropriate sinus tachycardia in a patient with systemic lupus erythematosus: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2019 Sep;3:ytz102.	Case Report
29	Nasu T, Satoh M, Ohmomo H, et al.	内科学講座循環器内科分野	Epigenome-Wide Association Study Identifies a Novel DNA Methylation in Patients With Severe Aortic Valve Stenosis.	Circ Genom Precis Med. 2020 Feb;13:e002649.	Original Article
30	Morioka H, Koeda Y, Itoh T, et al.	内科学講座循環器内科分野	Is the Prognosis Favourable in Patients without Cardiogenic Shock on Admission Following Acute Myocardial Infarction in the Left Main Trunk?	J Coron Artery Dis. 2020 26:1-8	Original Article
31	Chiba R, Morikawa N, Sera K, et al.	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	Elemental and mutational analysis of lung tissue in lung adenocarcinoma patients	Transl Lung Cancer Res. 2019 Nov;8:S224-S234.	Original Article
32	Maemondo, M.	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	NEJ026 trial: progression-free survival benefit is not enough reply	Lancet Oncol. 2019 Jul;20:e345.	Letter
33	Saikawa H, Nagashima H, Maeda T, et al.	内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野	Acute Cerebellar Ataxia Due to Epstein-Barr Virus Under Administration of an Immune Checkpoint Inhibitor	BMJ Case Rep. 2019 Dec 30;12:e231520.	Case Report
34	Ito S.	内科学講座血液腫瘍内科分野	Proteasome Inhibitors for the Treatment of Multiple Myeloma	Cancers (Basel). 2020 Jan;12:265.	Review

35	Oyake T, Takemasa-Fujisawa Y, Sugawara N, et al.	内科学講座血液腫瘍内科分野	Doripenem versus meropenem as first-line empiric therapy of febrile neutropenia in patients with acute leukemia: a prospective, randomized study	Ann Hematol. 2019 May;98:1209-1216.	Original Article
36	Iwaoka K, Otsuka C, Maeda T, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Impaired metabolism of kynurenine and its metabolites in CSF of parkinson's disease	Neurosci Lett. 2020 Jan;714:134576	Original Article
37	Miyazawa H, Natori T, Kameda H, et al.	内科学講座脳神経内科・老年科分野	Detecting lenticulostriate artery lesions in patients with acute ischemic stroke using high-resolution MRA at 7 T	Int J Stroke. 2019 Apr;14:290-297.	Original Article
38	Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Glucocorticoid use and ischemia-reperfusion injury in laparoscopic liver resection: Randomized controlled trial.	Ann Gastroenterol Surg. 2019 Nov;4:76-83	Original Article
39	Hasegawa Y, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Pure laparoscopic living donor hepatectomy using the Glissonian pedicle approach (with video)	Surg Endosc. 2019 Aug;33:2704-2709.	Original Article
40	Umemura A, Nitta H, Takahara T, et al.	外科学講座	Identifying Cystic Vein Perfusion Area Employing Indocyanine Green Fluorescence Imaging during Laparoscopic Extended Cholecystectomy for Clinical T2 Gallbladder Cancer.	Case Rep Gastroenterol. 2020 Feb;14:110-115.	Case Report
41	Umemura A, Suto T, Fujiwara H, et al.	外科学講座	Retrospective case-matched study between reduced port laparoscopic rectopexy and conventional laparoscopic rectopexy for rectal prolapse	J Minim Access Surg. 2019 Oct-Dec;15:316-319.	Original Article
42	Umemura A, Ishida K, Nitta H, et al.	外科学講座	An extremely rare case who underwent total remnant pancreatectomy due to recurrent pancreatic metastasis of intraductal tubulopapillary neoplasm.	Clin J Gastroenterol. 2019 Apr;12:153-159.	Case Report
43	Akira U, Takayuki S, Hisataka F, et al.	外科学講座	Cardiopulmonary Impairments Caused by a Large Hiatal Hernia with Organoaxial Gastric Volvulus Showing Upside-Down Stomach: A Case Report	Am J Case Rep 2019 Oct; 20:1530-1535	Case Report
44	Akamatsu Y, Kubo Y, Chida K, et al.	脳神経外科学講座	Intraorbital Arteriovenous Fistula Presenting with Impaired Extraocular Movement After a Provocation Test at the Third Segment of the Ophthalmic Artery	World Neurosurg. 2019 Nov;131:1-5.	Case Report
45	Ando S, Tsutsui S, Miyoshi K, et al.	脳神経外科学講座	Cilostazol may improve cognition better than clopidogrel in non-surgical adult patients with ischemic moyamoya disease: subanalysis of a prospective cohort	Neurol Res. 2019 May;41:480-487.	Original Article

46	Ando T, Shimada Y, Fujiwara S, et al.	脳神経外科学講座	Revascularisation surgery improves cognition in adult patients with moyamoya disease	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2020 Mar;91:332-334.	Original Article
47	Beppu T, Sato Y, Yamada N, et al.	脳神経外科学講座	Impacts on Histological Features and C-11-Methyl-L-methionine Uptake After "One-Shot" Administration with Bevacizumab Before Surgery in Newly Diagnosed Glioblastoma	Transl Oncol. 2019 Nov;12:1480-1487.	Original Article
48	Fujiwara S, Sato S, Sugawara A, et al.	脳神経外科学講座	The Coefficient of Variation of Step Time Can Overestimate Gait Abnormality: Test-Retest Reliability of Gait-Related Parameters Obtained with a Tri-Axial Accelerometer in Healthy Subjects	Sensors (Basel). 2020 Jan;20: E577.	Original Article
49	Miyoshi K, Chida K, Kobayashi M, et al.	脳神経外科学講座	Two-Year Clinical, Cerebral Hemodynamic, and Cognitive Outcomes of Adult Patients Undergoing Medication Alone for Symptomatically Ischemic Moyamoya Disease Without Cerebral Misery Perfusion: A Prospective Cohort Study	Neurosurgery. 2019 Jun;84:1233-1241.	Original Article
50	Ogasawara K, Fujiwara S, Chida K, et al.	脳神経外科学講座	Reduction in amyloid $\beta$ deposition on (18)F-florbetapir positron emission tomography with correction of cerebral hypoperfusion after endarterectomy for carotid stenosis.	Am J Nucl Med Mol Imaging. 2019 Dec;9:316-320.	Original Article
51	Oikawa K, Kobayashi M, Beppu T, et al.	脳神経外科学講座	Resolution of Hypoxic Tissue in Cerebellar Hemispheres After Arterial Bypass Surgery in a Patient With Symptomatic Bilateral Vertebral Artery Occlusion A F-18-FRP170 PET Study	Clin Nucl Med. 2019 Apr;44:295-296.	Case Report
52	Shimada Y, Kobayashi M, Yoshida K, et al.	脳神経外科学講座	Reduced Hypoxic Tissue and Cognitive Improvement after Revascularization Surgery for Chronic Cerebral Ischemia	Cerebrovasc Dis. 2019 Apr;47:57-64.	Original Article
53	Takahashi T, Kobayashi M, Fujiwara S, et al.	脳神経外科学講座	Decrease in F-18-Florbetapir Accumulation in the Cerebral Hemisphere With Hypoperfusion and Misery Perfusion Due to Chronic Atherosclerotic Occlusion of the Internal Carotid Artery	Clin Nucl Med. 2020 Feb;45:e115-e116.	Case Report
54	Yanagihara W, Beppu T, Ogasawara Y, et al.	脳神経外科学講座	Primary Plasmacytoma in the Cerebellum: A Case Report and Literature Review	World Neurosurg. 2020 Feb;134:10-13.	Case Report



55	Akamatsu Y, Kashimura H, Fujiwara S, et al.	脳神経外科学講座	Simple assessment of the localization of posterior communicating artery aneurysms to the anterior petroclinoid ligament	J Clin Neurosci. 2019 Aug;66:38-40	Case Report
56	Akamatsu Y, Kashimura H, Suzuki T, et al.	脳神経外科学講座	Impact of the Intracranial Course of Internal Carotid Artery on Optimal Surgical Approach for Posterior Communicating Artery Aneurysms	World Neurosurg. 2019 Jul;127:(オンライン)	Original Article
57	Kamada T, Tanaka R, Kin H, et al.	心臓血管外科学講座	Antegrade thoracic endovascular aortic repair via the left axillary artery in a patient with aortoiliac occlusive disease (Leriche syndrome)	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Aug;67:715-719.	Case Report
58	Tabayashi A, Kamada T, Abiko A, et al.	心臓血管外科学講座	Chronic contained rupture of abdominal aortic aneurism complicated with aortic occlusion: a case report.	Surg Case Rep. 2019 Jun;5:99.	Case Report
59	Tsuji S, Nawata K, Shimada S, et al.	心臓血管外科学講座	A superior vena cava to right pulmonary artery shunt for severe right ventricular outflow tract stenosis caused by an unresectable cardiac tumor.	J Cardiol Cases. 2019 Nov;21:97-100.	Case Report
60	Deguchi H, Tomoyasu M, Shigeeda W, et al.	呼吸器外科学講座	Influence of prophylactic antibiotic duration on postoperative pneumonia following pulmonary lobectomy for non-small cell lung cancer	J Thorac Dis. 2019 Apr;11:1155-1164.	Original Article
61	Deguchi H, Tomoyasu M, Shigeeda W, et al.	呼吸器外科学講座	Reduction of air leakage using linear staple device with bioabsorbable polyglycolic acid felt for pulmonary lobectomy	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Mar;68:266-272.	Original Article
62	Deguchi H, Tomoyasu M, Shigeeda W, et al.	呼吸器外科学講座	Usefulness of a suction ball coagulation probe for hemostasis in complete VATS lobectomy for patients with non-small cell lung cancer	Surg Today. 2019 Jul;49:580-586.	Original Article
63	Shigeeda W, Deguchi H, Tomoyasu M, et al.	呼吸器外科学講座	The utility of the Stapler with PGA sheet for pulmonary wedge resection: a propensity score-matched analysis	J Thorac Dis. 2019 Apr;11:1546-1553.	Original Article
64	Chiba Y, Murakami H, Sasaki M, et al.	整形外科科学講座	Quantification of metal-induced susceptibility artifacts associated with ultrahigh-field magnetic resonance imaging of spinal implants.	JOR Spine. 2019 Aug;2:e1064.	Original Article
65	Kikuchi S, Tajima G, Sugawara A, et al.	整形外科科学講座	Characteristic features of the insertions of the distal tibiofibular ligaments on three-dimensional computed tomography- cadaveric study.	J Exp Orthop. 2020 Jan;7:3.	Original Article
66	Kikuchi Y, Sato K, Doita M.	整形外科科学講座	An anatomical study of flexor pollicis longus blood supply with specific reference to volar locking plate surgery.	J Orthop. 2020 Jan;20:119-121.	Original Article

67	Sato K, Kikuchi Y, Mimata Y, et al.	整形外科科学講座	Volar locking plates not touching the flexor pollicis longus tendon appear as prominences on radiographs: a cadaver study	J Orthop Traumatol. 2019 Aug;20:29.	Original Article
68	Ando J, Sakuraba M, Sugawara A, et al.	形成外科学講座	Free flap reconstruction of Achilles tendon and overlying skin defect using ALT and TFL fabricated chimeric flap.	Case Reports Plast Surg Hand Surg. 2019 Jul;6:82-85.	Case Report
69	Baba T, Mandai M, Nishi H, et al.	産婦人科学講座	Early feasibility surveillance of gynecologic robotic-assisted surgeries in Japan	J Obstet Gynaecol Res. 2019 Apr;45:787-793.	Original Article
70	Kagabu M, Nagasawa T, Fukagawa D, et al.	産婦人科学講座	Immunotherapy for Uterine Cervical Cancer	Healthcare (Basel). 2019 Sep;7:108.	Review
71	Kagabu M, Nagasawa T, Sato C, et al.	産婦人科学講座	Immunotherapy for Uterine Cervical Cancer Using Checkpoint Inhibitors: Future Directions.	Int J Mol Sci. 2020 Mar;2:2335.	Review
72	Sasaki Y, Baba T, Oyama R, et al.	産婦人科学講座	Re-evaluation of the Edinburgh Postnatal Depression Scale as screening for post-partum depression in Iwate Prefecture, Japan	J Obstet Gynaecol Res. 2019 Sep;45:1876-1883.	Original Article
73	Shoji T, Eto H, Sato T, et al.	産婦人科学講座	A New Therapeutic Strategy for Recurrent Ovarian Cancer-Bevacizumab beyond Progressive Disease	Healthcare (Basel). 2019 Sep;7:109.	Review
74	Shoji T, Takeshita R, Saito T, et al.	産婦人科学講座	A case of primary ovarian signet-ring cell carcinoma treated with S-1/CDDP therapy	J Ovarian Res. 2020 Mar;13:33.	Case Report
75	Furukawa H, Ishikawa K, Tsuchiya S, et al.	小児科学講座	Validity of a disposable catheter to drain urine overnight in neurogenic bladder	Pediatr Int. 2019 Jul;61:706-711.	Original Article
76	Nishimi S, Sugawara H, Onodera C, et al.	小児科学講座	Complications During Continuous Renal Replacement Therapy in Critically Ill Neonates	Blood Purif. 2019 Apr;47:74-80.	Original Article
77	Ito A, Matsumoto A, Shiohata T, et al.	小児科学講座	Midgut volvulus in newborns: initial symptoms and clinical course	JIMA 2019 Oct; 71: 151-158.	Case Report
78	Tsuchiya S, Toya Y, Matsumoto A, et al.	小児科学講座	Management of preterm infants and incidence of patent ductus arteriosus	JIMA 2019 Dec; 71: 201-212.	Original Article

79	Hiraumi H, Obara M, Yoshioka K, et al.	耳鼻咽喉科学講座	Detectability of minute temporal bone structures with ultra-high resolution CT	Auris Nasus Larynx. 2019 Dec;46:830-835.	Original Article
80	Imaizumi T, Kurosaka D, Tanaka U, et al.	眼科学講座	Topical administration of a ROCK inhibitor prevents anterior subcapsular cataract induced by UV-B irradiation	Exp Eye Res. 2019 Apr;181:145-149.	Original Article
81	Nakagawa M, Hanada M, Amano H.	皮膚科学講座	A case of anaphylactic reaction to chamomile tea in a patient with mugwort pollinosis	Allergol Int. 2019 Jul;68:396-398.	Case Report
82	Nakagawa M, Hanada M, Amano H.	皮膚科学講座	Occupational contact dermatitis in a manicurist	J Dermatol. 2019 Nov;46:1039-1041.	Case Report
83	Tsunoda K, Onishi M, Maeda F, et al.	皮膚科学講座	Evaluation of Sentinel Lymph Node Biopsy for Eccrine Porocarcinoma	Acta Derm Venereol. 2019 Jun;99:691-692.	Case Report
84	Watabe D, Mori S, Akasaka T, et al.	皮膚科学講座	Six cases of perforating pilomatricoma: Anetodermic changes with expression of matrix metalloproteinases	J Dermatol. 2020 Jan;47:82-85.	Case Report
85	Watabe D, Tominaga M, Matsuda H, et al.	皮膚科学講座	Unilateral Remission of Psoriasis Associated with a Spinal Arteriovenous Malformation	Acta Derm Venereol. 2019 Jun;99:681-682.	Case Report
86	Watanabe A, Onishi M, Tsunoda K, et al.	皮膚科学講座	Meningeal Carcinomatosis in Advanced Extramammary Paget's Disease: A Case Report	Acta Derm Venereol. 2019 Jul;99:826-827.	Case Report
87	Ito A, Hisano M, Takahashi M, et al.	泌尿器科学講座	Complete response to nivolumab for metastatic renal cell carcinoma on hemodialysis patient; a case report.	Urol Case Rep. 2019 Oct;28:101048.	Case Report
88	Kanehira M, Takata R, Ishii S, et al.	泌尿器科学講座	Predictive factors for short-term biochemical recurrence-free survival after robot-assisted laparoscopic radical prostatectomy in high-risk prostate cancer patients	Int J Clin Oncol. 2019 Sep;24:1099-1104.	Original Article
89	Takata R, Takahashi A, Fujitani M, et al.	泌尿器科学講座	12 new susceptibility loci for prostate cancer identified by genome-wide association study in Japanese population	Nat Commun. 2019 Sep;10:4422.	Original Article
90	Takayama M, Omori S, Iwasaki K, et al.	泌尿器科学講座	Relationship between nocturnal polyuria and non-dipping blood pressure in male patients with lower urinary tract symptoms	Low Urin Tract Symptoms. 2019 Apr;11:O98-O102.	Original Article

91	Ikarashi D., Nakamura Y, Shimodate H, et al.	泌尿器科学講座	Complete response to perioperative treatment using nivolumab for metastatic renal cell carcinoma: A case report	Urol Case Rep. 2019 May; 24: 100839.	Case Report
92	Segawa T, Harada S, Sato T, et al.	放射線医学講座	Delivery and Effectiveness of Carboplatin via Targeted Delivery Compared to Passive Accumulation of Intravenously Injected Particles Releasing Carboplatin upon Irradiation	Radiat Res. 2020 Mar;193:263-273.	Original Article
93	Suzuki T, Ehara S.	放射線医学講座	Synovial Fat Deposition of the Knee Is Associated with Degenerative Joint Disorder	Tohoku J Exp Med. 2019 May;248:13-17.	Original Article
94	Takagi H, Ishikawa Y, Orii M, et al.	放射線医学講座	Optimized interpretation of fractional flow reserve derived from computed tomography: Comparison of three interpretation methods	J Cardiovasc Comput Tomogr. 2019 Mar - Apr;13:134-141.	Original Article
95	Tamura A, Nakayama M, Ota Y, et al.	放射線医学講座	Feasibility of thin-slice abdominal CT in overweight patients using a vendor neutral image-based denoising algorithm: Assessment of image noise, contrast, and quality.	PLoS One. 2019 Dec;14:e0226521.	Original Article
96	Kobayashi T, Suzuki K.	麻酔学講座	Anesthetic management of a surgical patient with an acute aortic dissection complicated by hemoglobin Kansas.	JA Clin Rep. 2019 Oct;5:69.	Case Report
97	Kodama Y, Takahashi G, Kan S, et al.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	Use of Direct Hemoperfusion with Polymyxin B-Immobilized Fiber for the Treatment of Septic Shock Complicated with Lemierre Syndrome Caused by Fusobacterium necrophorum.	Case Rep Crit Care. 2019 Jul;2019:5740503.	Case Report
98	Takahashi G.	救急・災害・総合医学講座 救急医学分野	A Patient of Using Presepsin to Diagnose Streptococcal Toxic Shock Syndrome during Anticancer Drug Treatment.	Case Rep Crit Care. 2019 Apr;2019:3240501.	Case Report
99	Fujita Y, Uesugi N, Sugimoto R, et al.	病理診断学講座	Gastric mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm (MiNEN) with pancreatic acinar differentiation: a case report	Diagn Pathol. 2019 May;14:38.	Case Report
100	Ishida K, Osakabe M, Eizuka M, et al.	病理診断学講座	The expression of gastrointestinal differentiation markers in extrahepatic cholangiocarcinoma: clinicopathological significance based on tumor location	Hum Pathol. 2019 Oct;92:91-100.	Original Article

101	Osakabe M, Sato C, Suzuki M, et al.	病理診断学講座	Mesenteric extraovarian Sertoli-Leydig cell tumor without DICER1 hotspot mutation: a case report	Diagn Pathol. 2019 Apr;14:27.	Case Report
102	Sato A, Fujita Y, Otsuka K, et al.	病理診断学講座	Differential expression of microRNAs in colorectal cancer: Different patterns between isolated cancer gland and stromal cells	Pathol Int. 2020 Jan;70:21-30.	Original Article
103	Shiomi E, Sugai T, Ishida K, et al.	病理診断学講座	Analysis of Expression Patterns of MicroRNAs That Are Closely Associated With Renal Carcinogenesis	Front Oncol. 2019 May;9:431.	Original Article
104	Sugimoto R, Uesugi N, Yamada N, et al.	病理診断学講座	Sarcomatoid change associated with epithelial-mesenchymal transition in mucinous tubular and spindle cell carcinoma of the kidney: a case report	Int J Clin Exp Pathol. 2019 Jul;12:2767-2771.	Case Report
105	Uesugi N, Tateno H, Yokoyama H, et al.	病理診断学講座	Melanocytic Nevus of the Colon.	Case Rep Gastroenterol. 2019 Jun;13:271-274.	Case Report
106	Katagiri K, Shiga K, Ikeda A, et al.	頭頸部外科学科	Effective, same-day preoperative embolization and surgical resection of carotid body tumors	Head Neck. 2019 Sep;41:3159-3167.	Original Article
107	Katagiri K, Shiga K, Saito D, et al.	頭頸部外科学科	Amplification and attenuation of lung metastases depending on glucocorticoid dosage implicating long-acting activated memory cells induced by nivolumab against malignant melanoma.	Clin Case Rep. 2019 Jul;7:1709-1713.	Case Report
108	Kobayashi T, Fukami H, Ishikawa E, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	An fMRI Study of the Brain Network Involved in Teeth Tapping in Elderly Adults.	Front Aging Neurosci. 2020 Mar;12:32.	Original Article
109	Kogi S, DaSilva J, Mikasa Y, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Knowledge and Practice of Oral Cancer Screening in Teaching Faculty Comparison of Specialty and Year of Clinical Experience	J Cancer Educ. 2019 Jun;34:455-462.	Original Article
110	Yamada H, Takeda Y, Ohashi Y, et al.	口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野	Oral diverticulum: a case report with histopathological findings.	J Surg Case Rep. 2019 Jun;2019:rjz170.	Case Report
111	Chikuda M, Sato K.	口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔学分野	Effects of dexmedetomidine on porcine pulmonary artery vascular smooth muscle	BMC Anesthesiol. 2019 Sep;19:176.	Original Article
112	Nomura T, Murakami T, Shimoyama Y, et al.	補綴・インプラント学講座補綴・インプラント学分野	Effects of denture adhesives on growth and morphological transformation of Candida albicans	J Prosthodont Res. 2020 Jan;64:78-84.	Original Article

113	Roppongi M, Izumisawa M, Terasaki K, et al.	口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野	F-18-FDG and C-11-choline uptake in proliferating tumor cells is dependent on the cell cycle in vitro	Ann Nucl Med. 2019 Apr;33:237-243.	Original Article
114	Tanaka R, Yoshioka K, Abiko A.	口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野	Updates on Computed Tomography Imaging in Aortic Aneurysms and Dissection.	Ann Vasc Dis. 2020 Mar;13:23-27.	Review
115	Mayama H, Kuwajima Y, Da Silva JD, et al.	口腔保健育成学講座歯科矯正学分野	Cephalometric Measurements Of Non-Syndromic Oligodontia In Early Dental Age In A Japanese Population.	Clin Cosmet Investig Dent. 2019 Nov;11:357-365.	Original Article
116	Chiba T, Endo M, Miura S, et al.	口腔医学講座関連医学分野	Regulatory T cells in Crohn's disease following anti-TNF- $\alpha$ therapy.	JGH OPEN.2019 sep;4:378-381.	Original Article

計116件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の審査事項、申請区分、開催日、審査方法、承認後の報告、記録の管理及び公開、申請書受付から審査結果までの流れ等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 学校法人岩手医科大学の職員等が行う産学連携活動に伴い発生する利益相反を適切に管理（マネジメント）することによって、大学及び職員等の社会的信用及び名誉の保持及び社会貢献の推進を図ることを目的する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4 回
・ 研修の主な内容 「臨床研究規制 ～研究推進と被験者保護～」 「誰でもわかる！？ サンプルサイズ設計」 「医学系研究倫理指針の基本とゲノム指針・医学系研究倫理指針の見直しの現状」 「研究・産学官連携活動におけるリスクマネジメント」	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

医学部卒業後2年間の臨床研修を修了した者を対象に、認定医および専門医等資格取得のための修練を実施している。各領域(科)に定める修練期間が異なるが、概ね次の3通りのパターンを設けており、各々のライフプランに合わせた研修を行う。

各科の研修は、自院のほかに院外(連携)認定施設においても行われ、専門医等取得に向け各領域の定められた症例(数)の臨床経験、論文の執筆・発表および学会参加等、種々の研修を積む。

- ① 臨床研修修了後、専門医取得に向けた専門研修を実施  
(概ね、医学部卒業後6年目以降に専門医を取得)
- ② 臨床研修中から社会人大学院へ進学し、博士号の取得と専門研修を並行して実施  
(医学部卒業後4年で博士号、6年目以降に専門医を取得)
- ③ 臨床研修修了後、社会人大学院へ進学と同時に専門研修を実施  
(医学部卒業後6年で博士号、6年目以降に専門医を取得)

研修プログラムの例として、内科専門研修プログラム(研修期間:3年間)における研修例は以下のとおりである。各領域(科)に定められた所定の研修を修了した後、認定医や専門医試験の合格を経て、その資格を取得することとなる。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	ローテーション	内科Ⅰ(又は内科Ⅱ)				救急科			内科Ⅱ(又は内科Ⅰ)				
		月1回~2回のプライマリケア当直(大学で研修の場合は内科の一次二次救急当直)を行う											
	目標	基幹施設での研修 1年目にJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約を10種以上登録											
		内科Ⅰ(又は内科Ⅱ)				総合診療科	救急科	内科Ⅱ(又は内科Ⅰ)					
		基幹施設での研修 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
3年次	ローテーション	選択内科(Subspecialty)や必要な疾患群を経験するための研修											
		連携施設での研修											
	目標	70疾患群を経験し200例以上を登録 2年次までに登録された病歴要約の改訂 内科専門医取得のための筆記試験											

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	106 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。



### 3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
松本 主之	消化管内科	教授	34年	
滝川 康裕	肝臓内科	教授	37年	
石垣 泰	糖尿病・代謝内科	教授	26年	
旭 浩一	腎・高血圧内科	教授	27年	
森野 禎浩	循環器内科	教授	26年	
前門戸 任	呼吸器・アレルギー・膠原病内科	教授	30年	
伊藤 薫樹	血液腫瘍内科	教授	28年	
前田 哲也	脳神経内科・老年科	教授	26年	
佐々木 章	外科	教授	31年	
小笠原 邦昭	脳神経外科	教授	35年	
金 一	心臓血管外科	教授	24年	
齊藤 元	呼吸器外科	教授	28年	
土井田 稔	整形外科	教授	35年	
櫻庭 実	形成外科	教授	29年	
馬場 長	産婦人科	教授	21年	
小山 耕太郎	小児科	教授	39年	
佐藤 宏昭	耳鼻咽喉科	教授	37年	
志賀 清人	頭頸部外科	教授	37年	
黒坂 大次郎	眼科	教授	32年	
天野 博雄	皮膚科	教授	26年	
小原 航	泌尿器科	教授	22年	
大塚 耕太郎	精神神経科	教授	22年	
吉岡 邦浩	放射線診断科	教授	34年	
有賀 久哲	放射線治療科	教授	30年	
鈴木 健二	麻酔科	教授	34年	
井上 義博	救急科	教授	37年	
諏訪部 章	臨床検査科	教授	35年	
菅井 有	病理診断科	教授	35年	
西村 行秀	リハビリテーション科	教授	23年	
下沖 収	総合診療科	教授	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 小笠原 邦昭
管理担当者氏名	病院事務部長 遠藤利明 及び 各所属課長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ又は薬剤部記録管理室
		手術記録	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ又は各診療科外来
		看護記録	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
		検査所見記録	診療記録保管室、電子カルテシステムサーバ等又は各診療科外来
		エックス線写真	診療記録保管室、放射線システムサーバ又は各診療科外来
		紹介状	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録保管室又は電子カルテシステムサーバ	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事職員課
		高度の医療の提供の実績	病院企画課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院企画課
		高度の医療の研修の実績	医師卒後臨床研修センター
		閲覧実績	病院企画課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院企画課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院企画課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

・紙媒体の診療記録については、1入院1診療録のターミナル・デジタル方式にて管理している。

・電子媒体の診療記録については各種サーバにて管理している。

・診療記録の院外持ち出しは、原則として禁止している。

・紙又は電子媒体で管理している。

・紙又は電子媒体で管理している。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	・紙又は電子媒体で管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部、薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部、臨床工学部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部、薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部、薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療福祉相談室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室、医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	病院企画課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院企画課
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院企画課		

・紙又は電子媒体で管理している。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	病院事務部長 遠藤 利明		
閲覧担当者氏名	病院事務部次長 佐藤 嘉英 病院企画課長 野中 尊史 病院総務課長 吉田 博貴 医事課長 本館 孝信 人事職員課長 佐々木 寛人		
閲覧の求めに応じる場所	諸記録閲覧室		
閲覧の手続の概要			
①諸記録閲覧にかかる案内文書を、病院正面玄関に掲示している。 ②諸記録閲覧の求めがあった場合は、諸記録閲覧室にて対応を行う。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本理念</li> <li>(2) 医療事故防止のための基本的な考え方</li> <li>(3) 医療安全管理における職員の責務</li> <li>(4) 医療安全管理組織体制の確立</li> <li>(5) 医療安全管理のための職員の教育・研修</li> <li>(6) 医療の安全確保を目的とした改善のための方策</li> <li>(7) 医療事故発生時の対応</li> <li>(8) 医療事故等調査委員会の設置</li> <li>(9) 患者相談窓口の設置</li> <li>(10) 患者との情報共有</li> <li>(11) 内部通報窓口の設置</li> <li>(12) 医療安全に係る監査委員会</li> <li>(13) 特定機能病院間の相互立入</li> <li>(14) 高難度新規医療技術又は未承認新規医薬品等を用いた医療提供</li> <li>(15) 院内暴力への対応</li> </ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療事故、インシデント・アクシデント、手術オカレンス、死亡事例等の収集、原因調査、分析</li> <li>2. 医療安全確保のための改善策の立案、職員への周知</li> <li>3. 院内巡視等による改善策の実施状況の評価及び見直し</li> <li>4. 医療安全管理のための研修会の企画・立案・実施</li> <li>5. 医療安全に関する情報の職員への提供及び注意喚起</li> </ol>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 58 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総合医療安全対策講習会（全13回：本開催1回、録画開催12回） 医療安全対策、医療関連感染制御、医薬品の安全使用、医療機器の研修</li> <li>2. 安全対策講習会（全13回：本開催1回、録画開催12回） Rapid Response Systemとは何か？なぜ必要か？</li> <li>3. 医薬品の安全使用に関する講習会・医療機器の安全使用の医療安全対策講習会（全7回：本開催1回、録画開催6回）</li> </ol>	

医薬品安全使用のための講習会、医療機器安全使用のための講習会

4. 新人研修（全6回）
5. BLS講習会（全2回）
6. 研修医・若手医師への研修会（全2回）
7. リスクマネージャー研修（全1回）
8. 看護師による静脈留置針研修 講義と実技（全6回）
9. 血液浄化装置基礎講習会（全2回）
10. 人工呼吸器基礎講習会（全2回）
11. 危機回避講習会（人工呼吸器・AED）（全4回）

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（  有 ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 病院長、副院長、医療安全管理部長、医療安全管理部等の管理部門への報告体制の確立と組織的対応の実施
  2. 電子カルテネットワークを用いた報告システムの運用
  3. 総合医療安全対策会議及び緊急安全対策会議での事実確認及び組織的対応の実施
  4. 総合医療安全対策会議及び医療安全推進委員会、医療安全管理部を通じた再発防止策の周知と徹底
  5. 院内ラウンドによる評価、検証、フィードバックの実施
  6. 事故等にかかる診療録、看護記録等の精査、指導
  7. 東北厚生局、盛岡市保健所、日本医療機能評価機構への適切な報告
  8. 医療安全管理のための医療安全対策マニュアルの整備

(注) 前年度の実績を記入すること。



規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関する基本的考え方  (2) 院内感染対策のための委員会、その他の組織に関する基本的事項  (3) 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針  (4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針  (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針  (6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本指針  (7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め、病院長への報告  (2) 院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに職員への周知を図る。  (3) 院内感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行う。  (4) 月1回開催するとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催する。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策（別添）</p>	
<p>④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況</p> <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染の発生状況を把握するため、病院における感染症の発生動向の情報を共有し、院内感染の発生の予防及びまん延の防止を図る。  (2) 重大な院内感染が発生し、院内のみでの対応が困難な事態が発生した場合、または発生したことが疑われる場合は地域の専門家等に相談が行われる体制の確保  (3) 「院内感染対策の指針」に即した院内感染対策マニュアルの整備、及び見直し。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2019. 4. 23 総合安全対策講習会「医薬品の安全使用について」 (全13回：本開催1回、録画開催12回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医薬品安全管理・情報管理</li> <li>2. 添付文書記載要領の変更</li> <li>3. 麻薬の取り扱い（麻薬事故時の対応）</li> </ol> <p>2020. 1. 7 医薬品安全使用のための研修会・医療機器安全使用のための研修会 (全7回：本開催1回、録画開催6回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全通知・医薬品安全性情報通知から</li> <li>2. 麻薬・毒薬・向精神薬の管理について</li> <li>3. 医薬品安全性情報等の管理</li> <li>4. 今後の予定</li> </ol>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 ( 有・無 )</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>「医薬品の安全使用のための業務手順書」に基づいた「業務チェック表」を各部署に配布し、チェックしたものを回収し確認している。その回収した「業務チェック表」を基に、医療安全管理部の薬剤師・看護師・医師および医薬品・栄養部会（薬剤師・看護師・医師など）で各部署を巡視し、指導を行っている。最終的に医薬品安全管理責任者が確認を行っている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：オメガベンなど</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 救急カート用医薬品の院内統一</li> <li>2. 病院移転に伴い、医薬品管理について自主チェック表を配布するとともに、医療安全ラウンドにて確認</li> <li>3. 高濃度カリウム製剤の原液投与禁止に向けた病院長通知</li> <li>4. 定数薬の削減に向けた院内通知</li> <li>5. 医薬品安全性通知を作成、配布し周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コデイン製剤及びトラマドール製剤の禁忌事項の改訂について</li> </ul> </li> </ol>	

- ・ラモトリギンの重篤皮膚障害と用法・用量の遵守について
  - ・パルモディア錠の腎機能関連の禁忌事項変更について
6. 医療安全情報通知を作成、配布し周知
- ・薬剤の中止の遅れによる手術・検査の延期
  - ・ヨード造影剤使用時のビグアナイド系糖尿病薬の休薬について
  - ・徐放性製剤の粉碎投与

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年109回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新しい医療機器導入時の研修</li> <li>2. 特定機能病院における定期研修</li> <li>3. 臨床研修医、新人看護師および新入職員の研修</li> <li>4. e-learningを用いた研修</li> <li>5. その他の研修</li> </ol>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 ( 有・無 )</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床工学技士による保守点検 年1または2回の院内における動作点検・消耗品の交換</li> <li>2. メーカーまたは委託専門業者による保守点検 年1または2回の動作点検・消耗品の交換</li> <li>3. 保守契約付リース機器の専門業者による保守点検 年1回の動作点検・消耗品の交換</li> </ol>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( 有・無 )</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機器の不具合情報や安全情報等の安全使用のために必要な情報を製造販売業者から一元的に収集し、得られた情報を医療機器に携わる職員に対して適切に提供</li> <li>2. 医療機器の添付文書、一部取扱説明書等の医療機器の安全使用・保守点検に関する情報の整理及び管理</li> <li>3. 管理している医療機器の不具合や健康被害等に関する内外の情報収集に努め、病院管理者へ報告</li> </ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は副院長であり、医療安全管理部長及び医療安全推進委員会委員長を兼務して、各組織を統括している。また、医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者は医療安全推進委員会委員であり、同委員会での報告を医療安全管理責任者が受けることにより、その業務を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（4名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況          薬剤部医薬品情報管理室（DI室）において、厚労省、PMDA、日本医療機能評価機構、日本病院薬剤師会ホームページおよび製薬企業等から情報を収集し整理を行っている。また、医療安全管理部専従薬剤師と情報の共有を行っている。          情報共有の周知方法としては、①定期的には「医薬品・医療機器等安全性情報」やDSU（医薬品安全対策情報）、医療安全管理部から「医薬品に関する院内インシデント報告」の配布、および薬剤部から「DIニュース」の発行配布。②緊急時の場合等は必要に応じ、医療安全管理部から「医療安全通知」および薬剤部からの「薬務連絡」「医薬品安全性通知」の発行配布。③電子カルテに「医薬品関連情報」ページを開設し、職員がいつでも確認できるようにしている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況          未承認・適応外・禁忌（併用・疾患）等については調剤時の疑義照会や病棟薬剤師による把握に努めている。把握できたデータは、持参薬鑑別時のものを含めて、医薬品情報管理室（DI室）に集約し、集計後、医薬品安全管理責任者に報告している。          また、処方医に対する確認や指導を行う手順については、①調剤時や病棟薬剤師ができるだけ疑義照会を行う。②DI室で集約検討後、医薬品安全管理責任者と協議の上、「医薬品安全性情報」を作成し、文書にて全体への周知の他、該当診療科や担当医師へ報告を行っている。③状況に応じて、担当医師へ電子カルテや直接の報告を行い、検討を促すなど行っている。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部医薬品情報管理室，職種 薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：病状説明書・同意書を病院統一の様式に変更した。新規申請については、診療情報管理室、医療安全管理部が連携し確認している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 診療記録監査委員会にて記載内容を確認し、不備がある場合は改善するよう指導</li> <li>2. 看護記録は記録の質的監査を目的に看護記録監査を実施 監査方法は、看護記録監査用紙の監査項目の監査基準に沿って確認</li> </ol>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（9）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（2）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全に係る会議資料及び議事録の作成等の事務</li> <li>2. 事故等発生時の患者等への対応状況の要因分析及再発予防策立案及び指導</li> <li>3. 事故等の原因究明の実施状況等の要因分析及再発予防策立案及び指導</li> <li>4. 医療に関わる安全管理のための職員研修の企画・実施</li> <li>5. 医療安全対策マニュアルの整備、職員への周知</li> <li>6. 医療安全対策に関する職員への周知及び評価</li> <li>7. 医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリング -院内巡視によるスタッフミーティングで提起された改善策の実施確認 -全手術におけるオカレンスのモニタリング -1次2次外来におけるCT読影レポートの見落とし防止策の実施と指導、他</li> <li>8. 医薬品及び医療機器の安全使用に関する管理状況の確認及び必要な指導</li> <li>9. 患者相談窓口の相談情報の把握及び相談体制への支援、医療安全管理への活用及び反映</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（5件）</p> <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高難度新規医療技術の提供に係る担当部門として医療安全管理部に設置</li> <li>2. 高難度新規医療技術の申請内容の確認</li> <li>3. 評価委員会の意見も踏まえ、申請内容の可否を決定</li> <li>4. 定期的に手術記録及び診療録等の記載内容を確認</li> </ol> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<p>・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（1件）、及び許可件数（1件）</p>	

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（  有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（  有・無 ）
- ・活動の主な内容：
  1. 未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に係る担当部門として医療安全管理部に設置
  2. 未承認新規医薬品等の申請内容の確認
  3. 評価委員会の意見も踏まえ、申請内容の可否を決定
  4. 定期的に診療録等の記載内容を確認
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（  有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（  有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 606 件（外来 99 件・入院 507 件）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 339 件  
 管理者が定める水準（国立大学附属病院医療安全管理協議会で定めた影響度分類3b 通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったもの）の当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して医療安全管理部への報告実績。
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  1. 医療安全管理部、医療安全管理部長、副院長、病院長で全死亡症例の死亡前から死亡に至る過程の診療記録等を回覧し、妥当性を検証
  2. 疑義が生じた場合は、当該部署に対して医療安全管理部が確認、更なる確認が必要な場合等は緊急医療安全対策会議を開催して確認、妥当性を検証
  3. 検証結果に基づき、必要な再発防止策の策定や指導を行う。  
 それらの結果を病院長に報告すると共に、医療安全推進委員会等で周知

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（  有（病院名：東京医科大学病院、東京女子医科大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（  有（病院名：東京医科大学病院、東京女子医科大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況  
 東京医科大学病院  
 （助言 1）非麻酔科による侵襲的検査・処置に対する鎮静は、院内で手順や指針を整備するのが望まれると思います。また RRS の導入をご検討中と存じますが、その検討においては多職種からなる委員会等で臨むが良いと考えます。  
 （実施 1）鎮静に関する事や RRS については、委員会やワーキングの立ち上げを行い導入に向けた取り組み、整備を進めていきます。  
 （助言 2）一部の収納で、在庫薬剤の名称表示がない箇所がありました。また収納の仕切りが一薬剤一仕切りに設定されていない部分も見られました。ご検討ください。ウログラフィンは、過去の事故例に学び、投与経路を明示するのが望ましいと思います。  
 （実施 2）薬剤の名称表示や収納の仕切りについては薬品管理巡視で確認を行い周知・徹底していきます。ウログラフィンの管理については、定数配置の必要性を含めた検討を行っていきます。  
 （助言 3）いま倫理委員会を整備中とのことですので、今後取り組まれる状況でしょうが、未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門は独立して運用するのが良いと思います。  
 （実施 3）未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門は担当部門として独立している。評価委員会は別に規程を整備済。

東京女子医科大学病院

(助言 1) Rapid Response System (RRS) がまだ稼働していないので、早急にシステム構築に取り組む必要があると感じました。

(実施 1) 規程を整備し、現在デモ運用中。10月以降の本運用に向け準備を進めている。

(助言 2) カリウム製剤の原液投与を行っているとのことなので、適応外使用になるため委員会等での検討が必要と思われます。

(実施 2) 病院長通知として一般病棟はもちろんGICU等の原液投与の禁止を確認しました。CICU等一部の部署の運用に関しては情報を収集して至急対応を検討します。

(助言 3) 鎮静剤使用時の安全性向上のため、マニュアル等の整備が望まれます。

(実施 3) ワーキング・グループを立ち上げ、マニュアル等の整備を行っていききたいと思います。

(助言 4) 関連の評価委員会はおおむね機能しているようでしたが、医薬品の適応外使用や禁忌薬の使用については、その可否を組織的に検討することを一層徹底した方が良いと思いました。

(実施 4) 組織として体制を検討していききたいと思います。

⑩ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

医療安全管理部と医療福祉相談室、総合保安対策室と連携し週1回の会議において対応事例の共有と対策の検討を実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 総合医療安全対策講習会 (全13回: 本開催1回、録画開催12回)  
医療安全対策、医療関連感染制御、医薬品の安全使用、医療機器の研修
2. 安全対策講習会 (全13回: 本開催1回、録画開催12回)  
Rapid Response Systemとは何か?なぜ必要か?
3. 医薬品の安全使用に関する講習会・医療機器の安全使用の医療安全対策講習会 (全7回: 本開催1回、録画開催6回)  
医薬品安全使用のための講習会、医療機器安全使用のための講習会
4. 新人研修 (全6回)
5. BLS講習会 (全2回)
6. 研修医・若手医師への研修会 (全2回)
7. リスクマネージャー研修 (全1回)
8. 看護師による静脈留置針研修 講義と実技 (全6回)
9. 血液浄化装置基礎講習会 (全2回)
10. 人工呼吸器基礎講習会 (全2回)
11. 危機回避講習会 (人工呼吸器・AED) (全4回)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

[管理者]

- ・日本医療機能評価機構「2019年度特定機能病院管理者研修(2020.2.12)」



[医療安全管理部長]

- ・ 日本医療機能評価機構「2019年度特定機能病院管理者研修（2019. 10. 11）」

[医薬品安全管理責任者]

- ・ 日本医療機能評価機構「2019年度特定機能病院管理者研修（2020. 2. 12）」

[医療機器安全管理責任者]

- ・ 日本医療機能評価機構「2019年度特定機能病院管理者研修（2019. 12. 16）」

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

2019年度 感染対策講習会

	講習会	開催日・開催回数	内容・講師
1	総合安全対策講習会	2019年4月23日 ほか5日 全13回	総合安全対策講習会 医療安全管理部
2	感染対策講習会	2019年6月4日 ほか6日 全13回	Teamで取り組む耐性菌対策 東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策部 副部長 感染管理認定看護師 美島路恵先生
3	感染対策講習会	2019年11月18日 ほか3日 全7回	感染症診療の原則 感染症コンサルタント、サクラ精工株式会社学術顧問 青木眞先生
4	感染対策講習会	2020年3月12日	抗菌薬の薬物動態の基礎と応用 慶應義塾大学 薬学部 薬効解析学講座 松元一明先生

全職員対象

	講習会	開催日	内容・講師
1	新入職員教育研修	2019年4月3日	オリエンテーション、PPE・マスク着脱、手洗い実習 感染症対策室長 櫻井滋 ほか
2	臨床研修医教育研修	2019年4月3日	オリエンテーション、PPE・マスク着脱、手洗い実習 感染症対策室長 櫻井滋 ほか
3	臨床研修歯科医師教育研修	2019年4月5日	オリエンテーション 感染症対策室副室長 岸光男
4	看護補助者研修	2019年4月12日	看護補助者研修 感染症対策室専従主任看護師 栗山聡美
5	新人看護師研修	2019年4月19日	新人看護師研修 感染症対策室専従看護師 及川みどり
6	栄養部内衛生勉強会	2019年6月17日	栄養部における感染対策 感染症対策室専従看護師 及川みどり
7	看護補助者研修	2019年7月5日	看護補助者研修 感染症対策室専従看護師 及川みどり
8	清掃業者教育研修	2019年7月30日	清掃業務委託業者の従業員への研修 感染症対策室専従看護師長 近藤啓子
9	看護補助者研修	2019年12月5日	看護補助者研修 感染症対策室専従看護師 及川みどり
10	栄養部内衛生勉強会	2019年12月6日	栄養部における感染対策 感染制御部専従看護師 及川みどり
11	看護補助者研修	2020年2月5日	看護補助者研修 感染症対策室専従看護師 及川みどり
12	針刺し講習会	2020年2月19日	健康管理センター村山主任 吉田雄一先生 小宅達郎先生

職種別・部署別対象

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基準の主な内容             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医師であること</li> <li>(2) 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること</li> <li>(3) 組織管理能力等の附属病院を運営する上で必要な資質及び能力を有すること</li> </ol> </li> <li>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載</li> </ul>
---

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 公表の方法 附属病院ホームページに掲載</li> </ul>	

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
祖父江 憲治	岩手医科大学	○	学長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
佐々木 真理	岩手医科大学		医学部長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
三浦 廣行	岩手医科大学		歯学部長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
小笠原 邦昭	岩手医科大学		附属病院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
鈴木 健二	岩手医科大学		学長が指名する医師である副院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
肥田 圭介	岩手医科大学		医療安全管理を担当する副院長	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
宮田 剛	岩手県立中央病院 病院長		医学及び医療に関し識見を有する学外者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
野原 勝	岩手県保健福祉部 技監兼副部長兼医療政策室長		医学及び医療に関し識見を有する学外者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の  
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 附属病院の管理運営に関する重要事項</li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況 議事の概要については、附属病院臨床部長会議にて通知を行う</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</li> <li>・公表の方法 附属病院ホームページに掲載</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( 有・(無) )</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
小笠原 邦昭	○	医師	病院長
鈴木 健二		医師	副院長
黒坂 大次郎		医師	副院長
土井田 稔		医師	副院長
肥田 圭介		医師	副院長
森野 禎浩		医師	副院長
井上 義博		医師	副院長
工藤 賢三		薬剤師	薬剤部長
佐藤 悦子		看護師	看護部長
出口 育美		看護師	副看護部長
遠藤 利明		事務	病院事務部長

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法  
附属病院ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容  
附属病院長が有する附属病院の管理及び運営に必要な人事及び予算執行権限については、次の各号のとおり定めるものとする。
  - (1) 人事執行権限について 岩手医科大学附属病院規程
  - (2) 予算執行権限について 学校法人岩手医科大学事務専決規程
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 附属病院に、副院長を置く。
  - ・ 副院長は、附属病院長を補佐し、附属病院長に事故あるときは、あらかじめ附属病院長が指名した者がその職務を代理する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2019年度特定機能病院管理者研修(継続・1日間)」を受講(令和2年2月12日)

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する  
状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年1回</p> <p style="text-align: center;">※年2回を予定していたが、第2回目（令和2年3月9日予定）は、 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、開催を中止した。</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>① 医療安全管理責任者、医療安全管理部、総合医療安全対策会議、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務状況について附属病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</p> <p>② 必要に応じて、理事長又は附属病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（(有)・無）</p> <p>・ 公表の方法： 附属病院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三木 保	東京医科大学 医学部 医療 の質・安全管理 分野 主任教 授	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・(無)	1
渡辺 正和	渡辺正和法律 事務所 代表		法律に関する識 見を有する者	有・(無)	1
古内 保之	元社会福祉法 人岩手県社会 福祉協議会 専務理事兼事 務局長		医療を受ける者 その他医療従事 者以外の者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを  
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部監査室において、定期監査及び臨時監査を実施している

・ 専門部署の設置の有無 (  有 ·  無 )

・ 内部規程の整備の有無 (  有 ·  無 )

・ 内部規程の公表の有無 (  有 ·  無 )

・ 公表の方法

附属病院ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況                  附属病院長に対し、附属病院の管理及び運営に関する事項の概要を、理事会に報告することを義務付け、職務の執行を管理している。</li> <li>・ 会議体の実施状況（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年11回 ）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）</li> <li>・ 公表の方法                  附属病院ホームページに掲載</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。



規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 通報件数 (年 16 件)
- ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 周知の方法

内部通報窓口の存在及び窓口の使用方法は、総合医療安全対策会議議事録及び医療安全推進委員会資料の表紙に記載して周知している。また、「医療安全専用の赤ポスト」を病院職員エリア 3カ所に設置し環境を整えている。